

## P21

子ども歯科への Cone Beam CT の活用  
-上顎第 1 大臼歯異所萌出の対応に関するシ  
ステム紹介-

○大野陽真、西川哲太、宮本理恵、  
宮本茂広、大野秀夫  
(医)おおの小児矯正歯科(下関市)

### 【はじめに】

近年、歯科用 Cone Beam CT(以下 CBCT)を  
導入する歯科医院が増加している。当医院に  
おいても 2009 年に CBCT の導入を行った。

医療者にとっての CBCT の最大の利点は正  
確な診断が可能になることである。また、患  
者にとっては 2 次元 X 線写真に比べて立体感  
あふれる媒体としての効果がある。

今回は、当医院における CBCT の活用状況  
を上顎第 1 大臼歯異所萌出症例に限定して、  
CBCT のシステム紹介(図 1)および症例の経過  
について報告する。

### 【研究対象および方法】

対象は当院で 2010 年 4 月から 2011 年 5 月  
の 1 年 2 か月の間に CBCT を撮影した患者で  
上顎第 1 大臼歯の異所萌出を認めた患者 6 名  
(男児 3 名、女児 3 名)であった。図 1 に従っ  
て症例の経過を述べる。

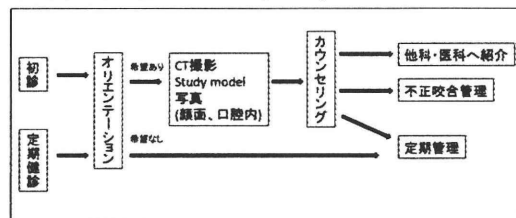


図 1 当院の CBCT 撮影のシステム

### 【結果および考察】

1. 当院の上顎第 1 大臼歯異所萌出に関する  
CBCT のシステムは、CBCT のみの患者説明で  
はなく、study model および写真を併用する  
ことで、CBCT を説明媒体として明確にした。  
これにより患者にとって非常に分かりやす  
いカウンセリングシステムが構築できたと思  
われた。
2. 本システムは患者にとって治療方針を非  
常に理解しやすく治療導入がスムーズに行  
うことができた。
3. 本システムは医療者側にとって個々の症  
例の異所萌出の原因が明確になり、系統だ  
った治療方針の立案が可能になった。

## P22

口腔の育成における歯科衛生士の役割  
赤柳美穂 (徳島県 川原歯科医院)

### 【目的】

2010 年の学校歯科健診において近隣の  
小学校 6 年生一人あたりの平均 DMFT は、  
不定期に歯科医院を受診している児童は 1.  
5 本、定期的に受診をしている児童は 0.6  
本、また、歯列咬合不正の児童は全体の 48.  
2% だった。私は健全な口腔の育成には、う  
蝕のリスクコントロールと咬合誘導が大切だ  
と考えている。今回は、歯列不正を主訴とし  
来院した子どもへ、う蝕予防から矯正治療を  
行って口腔の健康づくりへと意識改革をする  
ことができた症例を報告する。

### 【方法】

患者	M. K 10 歳 10 カ月 女児
主訴	歯並びが気になる
既往歴	特記事項なし
現症	歯列咬合不正 初期う蝕あり

現状の把握と今後の治療計画作成のためデ  
ントカルト社の唾液検査キットを用いてカリ  
エスリスク検査を実施した。ハイリスクであ  
ったため初期う蝕部位には予防充填処置を行  
った。また本人へのモチベーションの向上に  
つながるよう、口腔内の説明と矯正装置に対  
応するブラッシング指導を繰り返し行うと同  
時に、患者とのコミュニケーションに重点を  
おき生活習慣の改善や定期的な歯科医院への  
受診をすすめた。

### 【結果】

矯正治療を行い定期的に受診することで患  
者自身が口腔の変化に気づき、生活習慣の改  
善を行った結果カリエスリスクも低下した。  
意欲的に来院することが、本人の意識改革に  
もつながったと考えられる。

### 【考察】

小児期における口腔の健康管理は養育者か  
ら小児本人へと移行する期間である。その時  
期に患者自身に口腔への関心を持たせ、自ら  
が行う健康づくりに誘導していくべきであ  
り、患者と共に口腔の健康を守り育ててい  
くことが歯科衛生士の役割と考える。